

## 宇部市文化振興まちづくり審議会 第1回会議概要

日 時：平成28年(2016年)6月3日(金) 15:00～17:00

場 所：宇部市文化会館 2階 第2研修室

出席者：委員8人(欠席2人)

事務局：末次副市長、片岡総合政策部長、庄賀総合政策部次長

青山文化・スポーツ振興課長

荒武文化・スポーツ振興課長補佐

酒井文化振興係長、津室主任

その他：報道機関1人、傍聴者0人

### 1 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長を福田委員、副会長を廣田委員とすることに決した。

### 2 諮問

末次副市長から福田審議会会長へ諮問書が手渡された。

### 3 議事

#### (1) 宇部市文化振興まちづくり審議会の役割について

現行ビジョンの概要及び進捗状況、次期ビジョンの改訂趣旨並びにスケジュールについて事務局より説明。

(会 長) 現行のビジョンの策定にあたっては、相当苦勞した。

文書はコンパクトにまとめているが、「各事業」を、三つの柱(テーマA・B・C)、四つの基本理念、条例で示された10の柱などに落とし込み、非常に綿密にできている。

改訂にあたって、ビジョンのテーマA「緑と花と彫刻のまち」、テーマB「にぎわいのあるまち」、テーマC「未来に向かうまち」はそのまま残して良いのではないか。

文化は常に今と未来を考える。その意味で、C「未来に向かうまち」の人材育成は非常に大事と考えている。

個別事業進行についての説明があったが数字で出すのはしんどい。目標指標を決めるのはいいが、数値にとらわれてあまり無理をすることもなく正直に受けとめれば良い。

実際の数値を見て改めて姿が見える部分もある。

本日は、初会合なので、皆さん自由に、文化一般に関して幅広く意見交換したいと思います。

## (2) 意見交換

(委員) 学校教育では、伝統文化を取り入れることになっている。

小野中学校は、厚東中学校と統合し厚東川中学校となり、これまでの地域の文化をどのように小野小学校で引き継いでいくかが課題。

ただし、子どもたちの日常は大変忙しい。なかなかそこまで力がまわらない。

しかし、お茶や紙すきなどこれまで培ってきた地元の伝統文化を引き継がせたい。小野だからできるものが良い。

また、地域に特化したものでなく、書道など日本固有の文化を学べるカリキュラムもあって良い。

文化というものは、これまで身に付けていたものが身にしみていくもので、地道に育てる必要がある。

(委員) 私は現在、私設図書館の館長をして毎日子どもたちと接しているが、本当に子どもたちは忙しい。

また食育の指導として料理教室とお菓子教室を、小学校で行っているが、包丁や缶切りが使えない親がいるし、お箸が使えない小学生も多い。

どうしたら良いか頭を悩ましている。

子どもたちには、「今食べているもので、将来の体が出来てく

る。10年後を目指して、「ご飯を食べよう」と話している。

(委員) 宇部市に転入して、市民大学文化学部と観光ボランティア講座を受講し、宇部のことに興味を持った。ひとつ感じたのは、多くの宇部市民が「宇部には何にもないから」と言うこと。謙遜だろうがある程度親しくなった人でも、「宇部で観光できるところはない」と半ば本気で話される。

文化・観光でわかりやすいのは名所旧跡。しかし、そのようなものがなくても、「まちを誇りに思っている人の割合が多い」、それがまちの「文化力」と言えるのではないか。

将来もしも宇部を離れても、「宇部出身です」、「宇部の良さはここです」と話せるのが「文化力」と思う。

(委員) 市民大学には大学院も含めると、4年間通っている。

宇部には文化の多様性があるし、「宇部の文化は何が素晴らしいか」と常に考えてきた。

ビエンナーレ、石炭産業の遺跡、このように素晴らしいものがあるのに、そういうのがなかなかわかってもらえない。子どもたちにも継承する必要がある。

今後は、これをもっと多くの人に知らせていきたい。

(委員) UBEビエンナーレ世界一達成市民委員会で3年間活動している。

現場では、人材不足を痛感している。去年は、「まちじゅうアートフェスタ」を市域全体で開催した。職員も市民も大変だった。

ビエンナーレも、「まちじゅうアートフェスタ」も中身を良く濃くしていくための予算と人材は必要と感じた。

(委員) 資料を見て、市がこのような取り組みをしているのかと感心した。

現実には、子どもたちは宇部の文化を知らない。大半の保護者

も知らない。今日のPTAとしては、スマホゲーム対策、また読書活動に力を入れていこうとしている。

子どもたちに、文化を伝えていくことも大切であり文化に関する資料を学校で配布することなどもできるのではないか。

また、子どもたちは、街の中に出ていかないと文化には触れられないが大規模ショッピングセンターなどに、集まっているのが現状である。

放課後・休日は部活で忙しく、なかなか子どもたちに、気持ちの余裕がない。

子どもたちに、リラックスできる時間や場所を提供できないかということもPTAでは考えている。

(副会長) 市内で宿泊業に従事して8年になる。

重点施策Bの「ときわ公園ブランド推進事業」や「ふるさとツーリズム創出事業」関係で、市の関連部局と連携している。

今年は、熊本地震の影響で、中国・四国方面からのお客が多く、ときわ公園・動物園や宇部市の文化面でのPRをしていきたい。

文化だけではないが、常日頃思うのは、様々な施策で、各主体が独自で行うのではなく、例えば、市と商議所が連携して、一つの目標に向けて取り組むといったようなことが大事と思う。

ときわ動物園も開園したので、修学旅行がだんだん増えてきた。

また、韓国人観光客も増えて、ハングルの表示などはあるようだが、ハングルで説明できる人がまだ少ない。

当ホテルでは、市内の学生のインターンシップを受け入れているが、学生たちが宇部市のことを説明できないことに驚いた。

宇部に何があるかと聞くと「フジグラン」と答えるのでびっくりする。

職場体験をきっかけに文化を学ぶことがあっても良いと思う。

また、学生の文化活動を発表できるところが少ない。

ホテルとしても勉強の場として、地元の小中学生の発表会の場として、提供できないか。また、勉強の場だけでなく料理など食育も行っていきたいと考えている。

(委員) 宇部市の強みは何かを考えると、記念会館・石炭遺跡など歴史的構造物が残っていることだ。

萩・山口・下関には名所旧跡がある。さらに彼らには維新の歴史がある。

宇部の文化で人を集められるものは何か、このあたりを考えたい。

(委員) 観光ボランティア講座の講師の話だが、現在は、従来型の名所観光から、ストーリー性を重視するような観光に移りつつあるとのこと。

名所があればあるに越したことはないが、そこでしかできない体験を求めている人が増えている。

名所がなくても、案内する手法の工夫ひとつで、観光客を満足させることができる。見せ方や説明の工夫を図ることが必要に感じる。

急に新しい施設などをつくるのは難しい。記念会館でもガイドツアーを行っており、今あるものを十分生かしている

そのような意味では宇部は良い。

宇部には可能性や潜在能力はある。

(会長) 今年から、県も文化と観光を融合した部局をつくった。行政も変わってきている。

宇部市は、平成 22 年に条例を制定してまだ数年。文化は時間がかかる。

私は、山口大学に赴任するために山口県に来て、宇部興産の工場群にびっくりした。とても大きな立体作品(彫刻)に思えた。

50 年以上ビエンナーレを開催しているが、関東以北の人は、「UBE ビエンナーレって何？」というのが正直な感想。

ビエンナーレ以外にも、既に行っていると思うが、工場観光をもっと売り出してみてもどうか。

室蘭市は工場を作品として見せており、懐かしく思う人が多く訪れている。

ときわ公園は、もし人口規模の大きい都市にあれば、ものすごくたくさんの人を呼べる場所。動物園も起爆剤となっている。

私は、第2次ビジョンでは、「産業に役立つ文化」、「観光に役立つ文化」という側面を重視したい。「宇部の文化は何なのか」と・・・それは、この審議会が終わるころには、答えがでるのではと思っている。

宇部には、ビエンナーレだけでなく、もっと色々なものがある。

その意味では、昨年初開催した、「まちじゅうアートフェスタ」は良い取組であった。

他にも、高尚なものから大衆的なものがある。最終的には、心が豊かで、伸び伸びし、一人ひとりが「幸せだな」と感じるようなまちになれば、良いと個人的には思う。

(委員) ビエンナーレは、50年やっていて感心するが、私も今まではあまり知らなく、つい最近関心を持って活動を始めた。ストーリー性や見せ方に力を入れていけばもっと違っていたのではないか。

私も「まちじゅうアートフェスタ」に関わったが、ストーリー性や見せ方、特に「おしゃれな見せ方」に留意した。

インパクトのあるものでなくても、ストーリー性で見せる。

すべての事業にそのような観点を加えると良い。

(委員) 昨年の市民大学や大学院の際にもあった意見だが、ビエンナーレは市民参加型に方向性を変えたらどうか。

市民が選ぶ彫刻があっても良い。さらに、制作者の意図がわかるような説明も必要だろう。

ビエンナーレの審査（選考）については、結果だけでなく審査会の様子、決定に至ったいきさつなどもわかれば良い。芸術の

審査なので難しいかもしれないが。

(会長) 20年前のビエンナーレは今ほど注目されていなかった。

彫刻は、美術の中でも人気が少ない。しかも、抽象彫刻になると、わかりにくい。審査した人がどのように見て何が良かったのか説明があると良い。作品の意図なども説明されると良いが、彫刻家に言わせれば「見てもらおうとわかる」ということになるらしい。しかし、彫刻に携わっていない一般の人には不親切に感じる。

また、出品作品が抽象的で幾何学的なタイトルが付いていると非常に分かりにくい。

場所もどこに設置するか決まっていないので、設置場所を特定して公募すると、背景なども考慮した出品があるだろう。

また、テーマなどを決めたらどうか。例えば「平和」など色々考えられる。

テーマがないので、皆さん自由に出品される。これをまとめるのは難しい。

また、理想的には、市民に愛着がある公園などに彫刻が設置されていくのが良い。

市街地に、彫刻を置く際には、長期的な視点から設置計画を立てる必要があるのではないか。

観光客が来て、コンパクトで効率的に見られるように、まちなかにも「見せどころ」が必要だと思う。

(事務局) ビエンナーレでは、本展のときに市民投票により「市民賞」を決めている。

審査については、公開（インターネット中継）しているが、最終結果は、レセプションで発表している。

(会長) UBE ビエンナーレも多くの海外の作家が出品しているが、シンガポールビエンナーレでは、東南アジアで有名な人をピックアップして招待している。そうなるとその国の人も来てくれる。

シンガポールは芸術も経済政策の側面がある。宇部も姉妹都市に有名な作家がいれば招待すれば良い。

宇部の税金で実施している事業なので宇部市独自の考え方があっても良いのでは。

(委員) 私は28歳のときに初めて彫刻作品についてのコメントが掲載された冊子を読み、それまでは石のかたまりと思っていたが、哲学的な深い思考が彫刻にあることがわかり感銘を受けた。

作品を紹介する「説明板」を作ったとき、「市民のためになるのが一番」と思い、「邪道」だと言われても押し切った。

文化事業は市民に理解されなければ意味がない。

市民目線とのさじ加減が大事。

(会長) 芸術作品は一度見たら終わりというものではない。子どもどころ意味の分からないまま見た作品が、高校で歴史を学ぶことで見方がわかり、大人になっていろいろな経験をして、またわかることもある。同じものを見ても、見えたりするもの、感じたりするものが違う。

ちょっと難しい解説であっても、小学生の時にはわからなくても、大人になればわかれば良いという考えもある。場合によっては、作者の意図と違ってても良いと思う。

(会長) それでは、次に事務局から昨年行われた、「第26回ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ2015」の報告をお願いします。

(事務局) 資料に基づき説明

(会長) それぞれ4つの会場（第26回UBEビエンナーレ、まちじゅうアート・フェスタ、うべの里アートフェスタ、宇部市芸術祭）の来場者数は目標より多く、期待以上の数字だと思う。

(委員) ただ、少し漠然として全体像がつかめない感じはあった。



様々な市の部署や関係者が関わって行う事業なので、各イベント同士連絡・連携がもう少し取れたら良いと感じた。

チラシが何枚もあつたり、HPもバラバラだつたりしたので、次は、統一性なども考慮しても良いと思う。

(事務局) 2015年は、まちじゅうアートフェスタ実行委員会より前に、各イベントが既に実施に向けて動き出していた。

4つのイベントを連携して効果的につなげることができるよう、2017年に向けて既に庁内協議を始めている。

(委員) うべの里アートフェスタには、バスツアーで参加した。宇部の市街地の方でも、旧楠地区に行く機会が少ないと話される方もいたので、このような取り組みは良かったと思う。

(委員) 子どもに本物を見せたい、本物を発掘したいと思う。中途半端なものを見せて満足するのではなく、先ほどお話があったように、彫刻に説明板を付けて「価値づけ」をするようなことは、彫刻に限らず芸術全般に必要と思う。

そのような意味で、芸術に価値づけができる人材がどれだけいるかが課題で、そのような人材が連携を深めていく必要がある。

また単発で行われるイベントは、華やかなうちに終わるが、読書活動のような地道な活動でも文化はつくられていくと思う。

宇部市民は、本が好きで、いつも本を小脇に携えている、これも大事な文化。

(会長) 本物を見せるのは大事。  
ビエンナーレもそこから始まったのですから。

(委員) 先ほどもあったのですが、売り込み下手と感ずることがあります。

例えば、市の図書館でも「さざれ石」がショーケースに入れて

設置されていますが、入館しても大人でも気付かない。

また、私はビエンナーレに行くときは、必ず事前に勉強していきます。ただ行っても面白くない。

クラシック音楽と一緒に、彫刻家その人の人生・人となりなどがわかれば、ずっと理解の役に立ち面白い。

(会長) このたびは、アートフェスタの各会場で大きな支えになったボランティアは多かったようですが、ボランティアから、このような取り組みも広がるという面もあるでしょうね。

(会長) 本日は、初会合ということもあり、委員皆さんの文化に対する思いを聞かせていただいた。

「第26回UBEビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ2015」は、市内全域で初めて開催し、これまで、独自で行っていた、文化事業に焦点を当てたということで大変良かったと思う。

2017年に向けてぜひ取り組みを開始してもらいたい。

### (3) その他

次回、第2回会議については、寄せられた希望日程をもとに調整し、後日決定することとした。